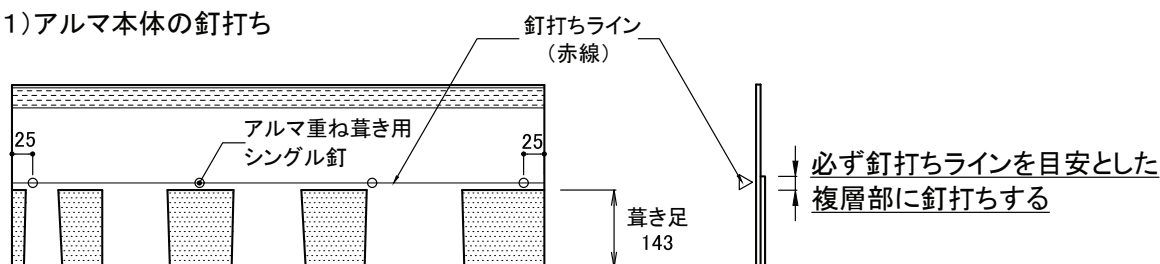


9 アルマの重ね葺き工法

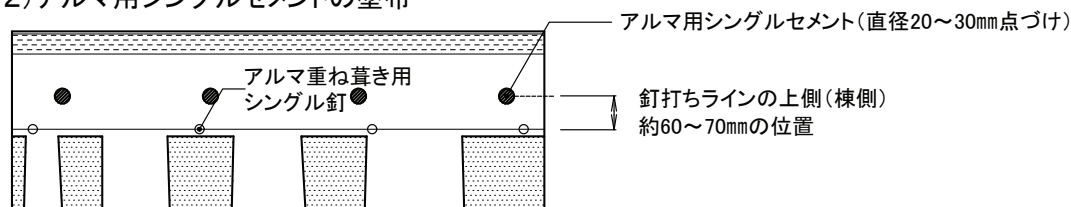
9-7 本体施工時のポイント

1) アルマ本体の釘打ち



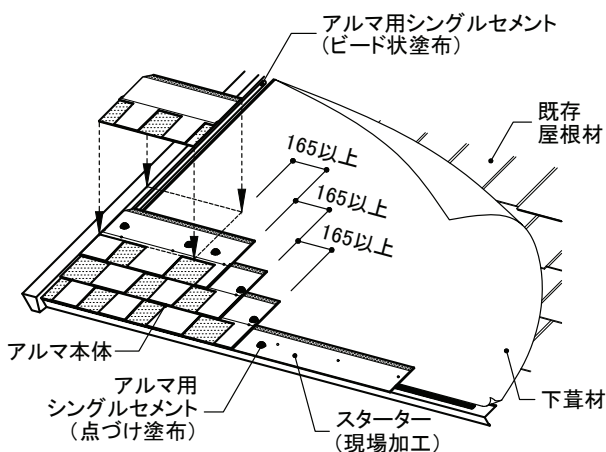
- アルマ本体への釘打ちは必ず釘打ちライン(赤線)を目安とした複層部に行います。
- アルマ本体1枚につき、シングル釘4本(強風地域は6本)で均等に留め付けます。なお、製品端部への釘打ちは端から25mm程度の位置で行います。

2) アルマ用シングルセメントの塗布

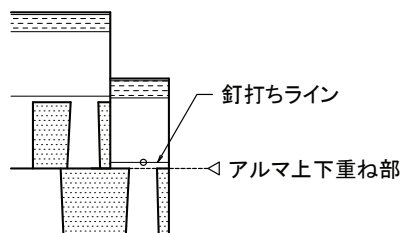


- アルマ用シングルセメントは釘打ちラインの上側(棟側)60~70mmの位置に、アルマ本体定尺品1枚につき4ヶ所程度塗布します。
- アルマ用シングルセメントは直径20~30mmの大きさに点づけにて塗布します。
- 軒先部やけらば部などでビード状に塗布する場合は幅5~10mmとします。
- シングルセメントの塗りすぎは膨れ、変形、汚れの原因となりますので塗布量には十分注意してください。

3) アルマ本体の施工

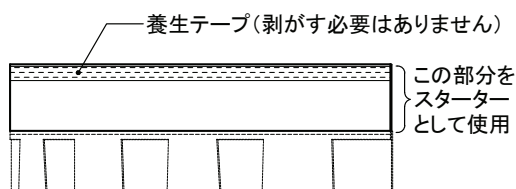


- アルマ本体施工の際、左右の継ぎ目が下段の継ぎ目と165mm以上ずれるように施工します。
- 左右の継ぎ目は突き付け施工となりますが、詰めすぎに注意してください。
- アルマ本体の上下重ねは下段本体凹部上端にあわせ、釘頭が完全に隠れるように施工します。
注) 釘打ちラインあわせではありません。



※複層シングルへ重ね葺きする場合のみ、段差解消のため、葺き始め2段目のアルマの葺き足を半分程度とします。

4) スターターの加工



- アルマ本体の下部複層部分を切り落とした上部単層部分をスターターとして使用します。
- 葺き始めスターターは1段目のアルマ本体と左右継ぎ目があわないように165mm以上切断します。
- スターター施工の際は、養生テープを上側(棟側)にして施工します。